

小学校体育指導書における陸上運動 についての考察

——昭和期・平成期の変遷を中心に——

ば ば けい いち ろう
馬 場 桂 一 郎

はじめに

現代の子どもたちは、体格は良くなっているが運動能力が低下していると言われている。陸上運動に含まれる走・跳・(投)の運動は、基礎的運動能力の測定にも使用される重要な領域である。昭和期・平成期に小学校学習指導要領あるいはそれに相当するものは、第二次世界大戦後の混乱期を除いては、ほぼ10年ごとに改定されてきている。

本稿は今までの指導要綱、指導要領、あるいは体育指導書の中に取り上げられている、陸上運動の内容の変遷について明らかにしようとするものである。

研究方法

昭和期・平成期に出された体育指導書に相当する書物の中から走・跳・(投)を中心とした陸上運動に含まれる運動種目を抽出し考察を試みた。資料にした文献は次のとおりである。

- ①第2次改正学校体操教授要目 昭和11年6月 文部省
- ②国民学校体錬科教授要項及び細目 昭和17年9月 文部省制定 河野大盛館
- ③学校体育指導要綱解説 昭和23年日本体育指導者連盟編 目黒書店
- ④学習指導要領小学校体育科編(試案) 昭和24年9月 文部省 大日本図書
- ⑤小学校学習指導要領体育科編(改訂版) 昭

和28年 文部省

- ⑥小学校体育指導書 昭和35年3月 文部省 大日本図書
- ⑦小学校体育指導書 昭和44年9月 文部省 東洋館出版社
- ⑧小学校指導書・体育編 昭和53年6月 文部省 東山書房
- ⑨小学校体育・指導書 平成1年6月 文部省 東洋館出版社
- ⑩小学校学習指導要領解説・体育編 平成12年5月 文部省 東山書房

結 果

指導要綱・指導書は運動をいくつかの領域に分けている。陸上運動が含まれる領域は、各資料により異なっており、各資料においては、次のような領域に含まれている①(昭和11年)走・跳、②(昭和17年)歩走・跳躍、③(昭和23年)陸上競技編・遊戯編、④(昭和24年)リレー・陸上運動、⑤(昭和28年)力試しの運動・リレー、⑥(昭和35年)陸上運動、⑦(昭和44年)陸上運動、⑧(昭和53年)基本の運動の歩・走・跳の運動・ゲームのリレー・陸上運動、⑨(平成1年)、⑩(平成11年)基本の運動の走・跳の運動・陸上運動となっている。

これらの中に含まれる運動を、資料別に分類した物が表1である。

a) 歩の種目としては、各種歩行・行進・足

表1 資料別

分類	資料		①	②	③	④	⑤
	第2次改正小学校体操教授要目	国民学校体操課 教授要項及細目	国民学校体操課 教授要項及細目	国民学校体操課 教授要項及細目	国民学校体操課 教授要項及細目	国民学校体操課 教授要項及細目	国民学校体操課 教授要項及細目
	昭和11年6月	昭和17年9月	昭和17年9月	昭和23年11月	昭和23年11月	昭和24年9月	昭和28年
	文部省	文部省	文部省	文部省	文部省	文部省	文部省
	文部省	河野大盛館	河野大盛館	河野大盛館	河野大盛館	河野大盛館	河野大盛館
含まれる領域	走・跳	走・跳	走・跳	走・跳	走・跳	走・跳	走・跳
歩		各種歩・行進 足踏	各種歩・行進 足踏				
個人走	置換競争 廻旋競争 旗取競争 触球 五十米走 五十米疾走 八十米走 八十米疾走 百米疾走	各種走 疾走 廻旋走 球列競争 置換競争 50M走	かけっこ 置き換え競争 回旋競争 旗取り競争 短距離走	かけっこ まわりっこ ジグザグ競争 旗取り 旗取り競争 球拾い競争 紅白球ならべ 二人三脚 競争	かけっこ 旗取り 競争		
かけ足		駆け足	駆け足				
持久走	中距離走			跡追い	持久走	持久走	
走・リレー	折返継走 受渡競争 円形継走 直線継走 長距離継走	折り返し継走 廻旋継走 継走	対向直線リレー 回旋リレー 円形リレー リレー	折り返しリレー サークルリレー 受け渡しリレー 置き換えリレー 継走	折り返しリレー 回旋リレー 円形リレー 置き換えリレー リレー		
変形リレー				だるま運びリレー 競争リレー ボール投げリレー ボール渡しリレー 救助リレー 輪くくりリレー 黒板リレー			
跳リレー				カンガルーリレー ウサギ跳びリレー			
ハードル・障害走系	障害競争	障害走	障害競争	障害リレー	野越え山越え 障害リレー		
幅跳び系	幅跳競争 走幅跳	幅跳	川跳び競争 幅跳び	川跳び競争 幅跳び競争 幅跳び	川跳び 幅跳び		
高跳び系	手布取 高跳競争 走高跳	高跳	高跳び	ハンカチ取り 高跳び競争 高跳び	ゴム跳び 高跳び		
連続跳び	片脚跳走 蛙跳 兎跳競争	片脚跳 兎跳 両脚跳び	両脚跳びリレー 片足リレー				
跳ぶ系		拳跳 へき立跳び越え 跳下 跳上下	馬乗り遊び けん遊び	馬乗り遊び 馬跳び遊び			
三段跳び	三回跳 三段跳	三段跳		三回跳び			
縄跳び	短縄跳 長縄跳	縄跳	縄跳び	縄跳び 縄跳びリレー	縄跳び		
鬼遊び 物を投げる		鬼遊び	鬼遊び	鬼遊び			
並びっこ 走・ゲーム	整列競争	帽子取り 軍艦遊び 旗奪		帽子取り			
カ比べ			押し出し遊び 相撲	押し出し遊び 突き出し遊び 相撲 綱引き 棒押し 片足相撲	相撲		
リズム					スキップ遊び ギャロップ遊び		

掲載種目

⑥	⑦	⑧	⑨	⑩
小学校体育指導書	小学校体育指導書	小学校指導書	小学校指導書	小学校学習指導要領解説
		体育編	体育編	体育編
昭和35年3月	昭和44年5月	昭和53年5月	平成1年6月	平成11年5月
文部省	文部省	文部省	文部省	文部省
大日本図書	東洋館出版社	東山書房	東洋館出版社	東山書房
陸上運動	陸上運動	基本の運動・歩・走・跳の運動 ゲーム・リレー遊び 陸上運動	基本の運動・走・跳の運動 陸上運動	走・跳の運動 陸上運動
		つま先歩行 大また歩行 リズム歩行		種々の歩行
かけっこ 短距離走(50m)	かけっこ 短距離走(50M)	全力走 短距離走	かけっこ 短距離走(50～80M)	かけっこ 短距離走
かけ足 持久走	かけ足 持久走	持久走 集団走	かけ足	かけ足
折り返しリレー 回旋リレー 円形リレー 置き換えリレー リレー	折り返しリレー 回旋リレー 置き換えリレー リレー	リレー遊び 折り返しリレー 回旋リレー 置き換えリレー リレー	リレー遊び 折り返しリレー遊び リレー	リレー遊び 折り返しリレー リレー
障害走	障害走	障害走	障害リレー遊び 障害走	ハードル走
川跳び 走り幅跳び	川跳び 幅跳び(立ち幅跳び含む) 走り幅跳び	川跳び 台上からの立ち幅跳び 走り幅跳び	幅跳び 走り幅跳び	幅跳び遊び 幅跳び 走り幅跳び
走り高跳び ゴム跳び	走り高跳び 高跳び ゴム跳び	走り高跳び ゴム跳び	垂直跳び ゴム跳び 走り高跳び 高跳び	高跳び ゴム跳び遊び
		片足跳び		ケンバ跳び
		反復横跳び	手たたき跳び 向き換え跳び 反復横跳び 回転跳び 足打ち跳び	
立ち三段跳び				
	鬼遊び			
並びっこ				
		スキップ		

- 踏み・大また歩行・リズム歩行など。
- b) 個人走は、短距離を全力で走る種目であり、低学年のかけっこから短距離走に発展する。また、興味を持たせたり、変化させるために、置き換え競争・球拾い競争など種々のパターンがおかれている。
 - c) かけ足
 - d) 持久走は、一定の時間走り続ける運動で持久走・長距離走いずれかが資料を通して一貫して示されている。
 - e) 走りレーは、基本的にはトラックを使うが、その前段階として、置き換えリレー・折り返しリレー・回旋リレーの形態が多くあげられている。
 - f) 変形リレーは、子どもたちに興味を持たすためであろうが、走以外の要素を取り入れて設定されている。
 - g) 跳のリレーも④(昭和24年)において、模倣的要素を取り入れて例示されている。
 - h) ハードル走・障害走は各資料に載っている。
 - i) 幅跳び系が全体を通して例示されている。同系列の遊びとしては、川跳びが③(昭和23年)から⑧(昭和53年)まであげられていたが、⑨(平成1年)から削除された。
 - j) 高跳び系は、一貫して例示されている。前段階として、高いところに布をぶら下げそれにタッチをしたり、取ったりするハンカチ取りがあげられている。⑤(昭和28年)以降は、ハンカチ取りは削除され、それに代わってゴム跳びがあげられている。
 - k) 連続跳び系の種目としては、片足跳び・ケンバ遊びなどがこの中に含まれる。
 - l) 跳ぶ系統では②(昭和17年)から④(昭和24年)において、馬跳びの系統が見られたが、⑥(昭和35年)以降は、器械運動あるいは体操の領域に移された。近年においては反復横跳び・手たたき跳び等が出ている。
 - m) 三段跳びが⑥(昭和35年)まで見られた。
 - n) 縄跳びも、最初から⑤(昭和28年)までは

- 陸上運動に含まれていたが、⑥(昭和35年)からは、その他の運動・体操に移行した。
- o) 鬼遊びは、初期においては含まれていたが、⑤(昭和28年)以降は⑦(昭和44年)を除いては、陸上運動と分けて考えられている。
 - p) 物を投げるは②(昭和17年)において短棒投げ・砂囊投げ・ボール投げが見られるが、⑥(昭和35年)以降はボール運動の系統に入れられた。
 - q) 並びっこは、②(昭和17年)、④(昭和24年)、⑥(昭和35年)において見られるが、その後には見られない。
 - r) 走のゲームは、走ることを中心とした遊びであり、帽子取り・軍艦遊びなどがあげられている。
 - s) 力比べ・相撲の系統は、③(昭和23年)、④(昭和24年)、⑤(昭和28年)において見られるが、⑥(昭和35年)以降は、その他の領域に移された。
 - t) リズム走は、走と言うには少し問題があるが、スキップ・ギャロップなどを指している。

考 察

陸上運動の系統は、基礎的運動能力と言われる、走・跳・投を基本として成り立っている。しかし、初期においては、ボール運動などを除いた外でできる運動と位置づけられていたように見られる。そこで、鬼遊び・縄跳び・相撲などが含まれていた。⑥(昭和35年)より、そのあたりが整理されてきたようである。基礎的な種目としては、短距離走・リレー・障害走・走り幅跳び・走り高跳び・持久走の6種目と言っても過言ではない。全体を見た場合に、投の種目が少ないように思われる。確かに、ボール運動ではボールを投げる・蹴るという動作が中心にはなるが、もっと形状の違う物、あるいは重さの違う物を投げる運動があっても良いと思われる。④(昭

和24年)においては、変形リレー・跳のリレーがあげられているが、変形リレーは、走るという運動に加えて他の要素が大きすぎるためあまり適当と思われない。また、跳のリレーも、競争にすると正確な動作が損なわれるため望ましくない。個人走においては、①(昭和11年)から④(昭和23年)までは、子どもたちの興味を引くために変化をつけた形態が見られたが、その後は、シンプルな形となっている。持久走については、発達の適時性もあるかと思われるが、近年の指導書においては、低学年では、持久走的な運動が見られるが、高学年では見られないのはなぜだろうか。また、低学年においても、せいぜい3～4分間のかけ足があげられているが、果たしてこれが持久走といえるかどうかは疑問視される。全体的に見ると、⑥(昭和35年)～⑧(昭和53年)までは、競技志向が強くと表れているが、⑨(平成元年)からはより多様な動作を取り入れようという傾向が見られる。

陸上運動においても、他の領域と同様に種目が競技的な物に絞られてきている傾向が見られる。走の種目にしても、ただ単に何も持たずに直線をまっすぐ走るといっただけの種目ではなく、物を持って走る・曲がったコースを体のバランスを取りながら走る。走り高跳びにしても、跳んだ後きちんと安全に着地するような跳び方が必要と思われる。また、走を伴う鬼遊びも、高学年では見られないが、むしろ追いかけて逃げる時に、最大走力が発揮されるとも考えられる。④(昭和24年)においては、45種目・⑤(昭和28年)においては、22種目が例示されており、楽しみながら

力を付けるという姿勢がもっと必要なのではないかと思われる。

まとめ

- ① 昭和期から平成期に出された小学校体育の指導要領・指導書に相当する文献から各種目の変遷を見た。
- ② ④(昭和24年)までは、子どもたちの発達段階に即して、興味を喚起する種目が多く入れられているが、それ以降は競技志向が強くなっている。しかし、⑨(平成元年)からはその見直しが行われている。
- ③ ⑤(昭和28年)までは、陸上競技は、球技を除く、外で行う競技と解釈されていたようであり、鬼遊び・物を投げる・走を伴うゲーム・力比べ(相撲を含む)などが含まれていた。
- ④ 陸上競技は、比較的単純な動作の物が多いため、子どもたちの興味をいかに喚起するかが指導上の大きな課題となる。

参考文献

- 1) 井上一男：学校体育制度史，増補版，大修館書店，東京(1976)
- 2) 中島 海：遊戯大辞典，4版，不味堂書店，東京(1964)
- 3) 馬場桂一郎，体育指導書における「鬼遊び」についての研究，大阪信愛女学院短期大学紀要第35集，29～33頁(2001)
- 4) 馬場桂一郎：第二次世界大戦後の小学校体育における器械運動についての考察 小学校体育指導書をもとにして，大阪信愛女学院短期大学紀要第36集，19～26頁(2002)
(受理 2003年1月20日)